

6月の果実の見通し

品目	区分	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年入荷量(t)	前年占有率(%)	
すいか類		9,042	96	9,317	187	102	187	-	0.0	大玉すいかは千葉産を中心に熊本、鳥取産の入荷となる。千葉産は生育は概ね順調に推移しており、出荷開始は5月上旬からとなり、ハウス栽培のピークは5月末～6月上旬となる。トンネル栽培との切り替えとなる中旬～下旬(25日前後)には、入荷の谷間ができる可能性もある。熊本産は6月下旬で終了の見込み。鳥取産の入荷スタートは例年並みの中旬からとなるが、出始めの入荷量は少ない見込み。全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並みの見込み。
メロン(アンデス)		1,141	100	1,355	333	104	340	14	1.2	茨城産中心の入荷で、全体の約9割を占める。茨城産は5月下旬から出荷のピークとなる。一部で交配不良も見られたが、昼夜の気温差があったことにより、例年以上に果実品質は良好である。6月中旬以降出荷量は減少し、前年より早めに終了となる。山形産は6月下旬から入荷の見込み。全体の入荷量は前年並み、価格は前年をやや上回る見込み。
おうとう		927	105	1,093	1,808	98	1,700	865	93.3	山形産が全体の約7割、米国産が約2割を占める。ハウスおうとうは6月上旬でほぼ終了の見込み。低温により生育が遅れており、露地ものの早生品種は6月中旬から、「佐藤錦」の入荷は下旬(24日頃)からで、ピークは月末からとなる見込み。晩生種の「紅秀峰」は7月3日頃から入荷となる。全体の入荷量は前年をやや上回り、価格は前年並みの見込み。
ぶどう(デラウエア)		484	108	537	974	104	1,006	3	0.7	鳥根、大阪、山梨中心の入荷となる。主力の鳥根産は前年よりスタートが早まり5月8日から出荷となった。生育は順調であり、5月下旬から数量もまともになり、6月上～中旬にピークとなる。大阪産は前年より早く中旬頃からピークとなる。全体の入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をやや上回る見込み。
マンゴー		124	80	143	2,674	115	2,449	-	0	宮崎産中心の入荷で全体の9割を占める。宮崎産は5月上旬に入荷のピークとなり中旬以降やや減少しているが、下旬から6月にかけて再び入荷量が増加してくる。出荷時期が早まったこともあり、6月の出荷量は前年を下回り、7月には急減する。沖縄産は6月中旬頃から入荷が本格化してくる。全体の入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。